

	G氏	H氏
保育所保育指針の独自性について	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、幼稚園においても養護の役割が大きくなってきている。保育所保育と幼稚園教育で求められるものが同一化してきているのでは。 ・保育の主体者は、あくまでも親であり、子どもの成長の喜びや育児の楽しさを親に戻すことが必要であり、保護者との連携・協力、家庭をどうまきこむかが大切である。 ・幼稚園では、指導計画を月ではなく発達の節目で3期か4期に分け、そこから週案を作成している。保育園では、監査対応と月刊誌の影響であろうか、月案で作成している場合が多い。子どもの成長区分を考えると、月案ではなく、発達の節目で、ねらいと内容を組織すべきなのは、このあたりの示し方が「指導計画」の部分で反映されるとよい。 	<p>「養護と教育の一体性」「遊びを通して総合的に・・・」の意味が解っているようで解っていない現状があるように思う。今、県保育士会で指導計画の1つのモデル形式を提供しようとしているが、その検討の中で次の意見が出た。「ねらいには養護と教育があるからそれぞれに分けて書く。「内容」は生活と遊びに分ける。生活は食事・排泄など保育士がやることだから養護であり、遊びの部分が教育である」保育所には教育がないのではなく、食事・排泄など子守りと思える世話をしながらも、ちゃんと教育的な働きかけをしているのだということをはっきり、保育士自身も自覚し、自信をもって保育にあたるよう、養護、教育を明確にした方がいいと思う。</p>
子どもの発達過程別の「ねらい」「内容」の示し方について	<ul style="list-style-type: none"> ・発達には個人差があり、年齢ごとに発達区分することで、子どものアンバランスな発達を認めにくいという危険性もある。反面、段階的に書いてあることは解りやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少し安定することやあせらないことを考えたら従来どおりで良いが、あくまでも「発達過程」と捉えることができれば、1歳で区切ってもいいように思う。(0歳児は6ヶ月で良い) 昨年度県保育士会で児童票の見直しをし、指針に沿った年齢でわけたら、1歳2ヶ月入園の子どもはどれを使うの?等現場での混乱があった。
保育士の専門性について	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士の専門性は、きちんと子どもが育つということ。保育者として一番学ばなくてはいけないのは、子どもの毎日の生活や遊びをどう読み取って、個と集団においてどう育てられ、かつ育ち合いをしているか、ということ。 ・人として豊かな人間性と共に、専門性をもって子どもの発達や成長そして学びをきちんと分析的にとらえ伝えられること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の研修に関するコメントの中で触れている。
保育士の研修について	<ul style="list-style-type: none"> ・保育は人。だからこそ研修は大事。13章における「研修に積極的かつ主体的に参画・・・」という文言に加えて、日々の省察と教材研究など、毎日の実践こそが研修の場である、というあたりを入れてほしい。 ・8時間がすべての時間を子どもと向き合うのではなく、1時間は準備や振り返りの時間に使えるような勤務体制は作れないか。先生が勉強する時間の確保を明確に図ってほしい。 ・現在、国の方針として、さまざまな子育て支援対策が打ち出されてきているが、子育てを支える保育者の質の向上が、問題解決のひとつの即戦力と考える。公園をたくさん作るより、保育者が研修をするための時間と場と機会とお金を保証して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公立保育所は研修費が削られたことで、大変参加者が少なくなってきた。参加しても「出張命令が出たから来た」ととても消極的。私立の保育園も園によって格差がある。子どものため、保育所の生き残りという点においても、この研修の部分はとても大切だと思う。 ・園主導の研修だけでなく、「自分のお金と、自分の時間を使ってでも」という姿勢は勿論だが、そこにもやはり園長の理解が必要だし、園の方針にも大きく左右されると思う。研修の派遣も難しくなり、ますます園内研修が大事になってくるが、そのためには職員一人一人の自覚と覚悟、それに職員の協力体制が求められる。 ・第13章の「保育所における子育て支援及び職員の研修など」をそれぞれを独立させて、「職員の研修」(又は専門性とあわせて)の章とし研修の大切さを示して欲しいと思う。

	E氏	F氏
保育所保育指針における子育て支援に関する示し方について	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に朝夕保護者に対応しているのは非常勤である。特に長時間保育、一時保育、子育て支援センター事業を行っているところは、体制や理念がしっかりしていなければ。 ・保護者の支援として1章掲げたい。在園児、在宅児それぞれの保護者への対応は必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現場によっていろいろな取り組みがなされている。当初は、育児相談などを通じて、家庭にいる母親を助けていくという意識があった。しかし現在では、子どもの発育を知らない、関わり方がわからない親が多く、園庭開放の場で、保育者の子どものかかわり方を見たり、そばで見ている保育者が現場でやっていることを伝えることなど、日常の保育そのものに学ぶものがあり子育て支援につながっていると思う。
保育所保育士が行う子育て支援の独自性について	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士が行う支援は、「限界を知り」というところが大切。そのためのネットワークの構築がこれから益々必要。ネットワークの構築を職務内容に組み込むか課題であるし、指針でも強調していきたい。 ・「毎日会う子どもの姿からはじまる」ことは忘れていけない視点である。個々は強調していくべき。子どもの直接処遇もそうだが、保護者の処遇に悩んでいる保育士もいる。1人で抱え込まないで園全体で取り組むこと、体制作りも必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援というより、家族支援。子どもだけ単独に問題があるのではない場合が多い。人間ということに関してもっと勉強する必要がある。 ・保育者は、子どもの発達道筋を知っているという専門性を大事にしたい。
幼稚園や小学校との連携に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校との関係については、連携の前に共有すること、お互いを知ることが必要だ。 ・幼稚園教育要領・保育所保育指針は、それとともに小学校まで見据えた共有素地にすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学5年生の保育体験や幼児の小学校訪問など、交流を行っている。両者にとってよい影響がある。 ・小学校との連携は重要。子どもの成長発達をトータルでみていくことが大切。2～3月のうちに小学校の先生が園にみえたり入学後必要に応じて情報を交しあうなど、幼小が切れずに、伝達し合えること、困ったときは相談しあえる関係が大事。
地域の他の専門機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ざっくりばらんに地域の子育てをどのようにしてゆくか、語る為に必要な共通の指針が必要。 ・「協同的学び」について：幼稚園では意識している。もっと前の段階で、どうしたらいいのかがはっきりしていない。幼稚園では集団としての行動や活動が重きを置かれる。そこに至るまでの個の確立、育て方が弱いのではないか。幼児教育の中で年齢別にクラスとしてとらえるのも日本独特なのは。その前の段階で1人1人の学びの軌跡を0歳からの手立てを明確にしてはじめて本当の協同的学びがなされるのであろう。 ・行政レベルの話だが、地域懇談会等で保育所も参画できるようにしていきたい。もっと実態をつかむ保育所が現状を発信しても良いのではないだろうか。言わないと地域は変わらない。 	

	G氏	H氏
保育指針における子育て支援に関する示し方について		
保育所保育士の行う子育て支援の独自性について	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の大本は保育の充実である。親が子どもを喜んで育てたいと思うのは、子どもが生き生きのびのびと楽しく園で暮らし、なおかつ子どもが育った実感を感じるときである。 ・家庭・地域の教育力再生、の視点からみたとき、幼稚園や保育園が地域のなかで子育て支援の重要な拠点としての役割がある。親にとって、園で子どもが遊んでいる姿そのものが親としての学びとなる。この年齢ではこのような遊びができる、もう少しするとこのように成長する等他の子どもの姿が見られることで、子どもの成長の様子や段階がわかる。また、保育者の子どもたちへの関わり方や、園生活に触れることで、子どもの日常生活や遊びへの理解が深まり、家庭で取り入れることが可能となる。 ・園の中には自然や季節が感じられる動植物があることも重要だ。園にいる子どもだけでなく、親、地域の方たちも、それらを見ることによって、季節を感じたり気持ちを和らげたりできる重要な園の財産であろう。このように、幼稚園のなかを地域にしていって視点が求められているのではないだろうか。 ・家庭教育支援は、いろいろなケースに対して応えうるだけの力をもっていることが保育者に求められている。 	<p>”子育て支援を行なっている”といっても、その充実度は様々で、支援センターを立ち上げている園長から「補助金丸儲け」という言葉さえ聞かれる。そこには、本来の子育て支援の必要性についての認識はなく、新しく保育所を始めたり、認可をとる為、また、園舎を建替える条件に「子育て支援をする」ことが上げられることに原因があるのではないかと思う。支援の内容の明確な規程もないので、形だけの支援が行なわれれば当然「丸儲け」現象となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「支援」といえば目が園の外にばかりに向いていないだろうか。確かに、家庭で孤立している人や子育てに息詰まっている人が多いのも事実であるが、今、保育園にきている親子は本当に大丈夫なのか確認が必要に思われる。「入所児童の多様なニーズへの対応」では”ニーズ”だけが目に飛び込んでくる。「入所児童の保護者への子育て支援」と「地域に於ける子育て支援」としては、 ・子育て支援に関することは”保育所における子育て支援”とし、他の専門機関との連携についてもこの章でふれるのはどうだろうか。
幼稚園や小学校との連携に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の前段階ではなく、乳幼児期の特性にあった保育の充実が大事。 ・小学校と保育園、幼稚園と保育園など、お互い知り合うこと、相互理解は重要である。足立区には保一幼一小の集まりであるブロック連携会議が年2回ある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ある自治体では、接続期の教育プログラムが発表になった。ただ、よほど理解しないと、前倒しの”小学校予備校”になる恐れがあると心配している。昨年、プレスタディの試行としてプレスタディからの保育の様子がテレビで放映されたとき、”授業”という言葉が飛び交っていた。また、幼保小連絡会でも「小学校に行って困らないように、あれもしている、これもしている、連携バッチリ」という園長の報告もあった。
地域の他の専門機関との連携		

	E氏	F氏
他の課題・問題点および、子育て子育て環境の変化に伴う保育指針の今後について	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間保育：11章で4行のみの記載だが、一日の流れをとらえ、長時間をいかに過ごすか、どう生活してゆくか、家庭生活との連続性などに目を向けないといけない。 ・虐待問題：保護者への援助のところで絡めれば具体的になるのではないか（家庭への支援で）虐待の芽は日常にたくさんある。保護者との対応の中で触れたい。 ・障害児保育：「特別支援」としてとらえ、早く対応する必要もあるのでは。障害を持つという所ではなく、「多様な子ども」に配慮する姿勢についてどこかで触れるほうがよい。 ・指針の位置付け：将来的な一本化と告示を目指すべきであろう。保育の本質がどこの園に行っても守られるようにすべき。 ・今後、保護者の参画がキーワードとなる。そこをどこかに盛り込んでいきたい。家庭任せではいけない。 ・指導要録：保育所にも必要。0歳からの状況を中学校まで持っていくというところもある。何を共有化してゆくかが大切だが、その第一歩として、お互いの記録の活用について報告がなされる必要があるであろう。 ・幼保の違い：時間が短いので幼稚園ではその子どもの家庭が見えない。保育園では見えることも幼稚園では家庭で行うものは家庭に任されているので、保育園では幼稚園プラス「家庭の補完」が必要で、とくに家庭支援の必要性を感じた。しかし、幼稚園の家庭でも支援が必要な家庭も預かり保育を行うと見えてきた。これまで幼児教育に特化できていたと思った。お互い話せるようになったことから連携が進んでいった。幼稚園の方も保育園が集団をあまり意識していないことに驚かれたと思う。これからどうするかという解決の部分ではこれからの課題となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・告示になれば、職員の意識は高まるように思う。ただ、日常の保育のなかで何が変わるのかはわからない。 ・指針のあらわしかたが、すべて文章だけというよりも、より保育に生かせるよう、表や図、イラストなども含むとよい。

	G氏	H氏
他の課題・問題点および、子育て環境の変化に伴う保育指針の今後について	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領と保育所保育指針は、一緒になるべき。さらに昭和22年の保育要領のように、幼稚園も保育所も家庭も一緒にして、子どもを真ん中において幼児教育はこうしていこう、という姿勢がほしい。 ・長時間、長期間の保育を考えたとき、子どもの過ごす環境をどう作っていくか、場や空間の確保が必要。人間が生活する空間としての豊かさに繋がるような工夫を。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、認定こども園で学級担任制になると、保育所もということになるのではと心配している。むしろ、生活の場であるクラスが”たて（異年齢）”の編成で、適宜“よこ（同年齢）”の形態をとるのが少子化の今、望ましいと考えている。なぜなら、20年ほど異年齢保育を経験して思うことは、たまに、意図的に組み合わせられた”たて”の関係では家族、きょうだい関係の本当の良さが育ちにくいと思うからである。せつかく積極的にとられるようになった異年齢保育が片隅に追われることのないような位置付けをお願いしたい。 ・幼稚園教育要領の後追いではなく、保育所独自のものを「告示」として認めて欲しいと思う。 ・第12章にアトピー性皮膚炎のことはあるが、食物アレルギーのことはないようである。命にかかわることもあり、現場では苦慮しているところである。食育推進法を受けて、また、保育所の独自性というところから、食に関する事項を設けたらどうだろうか。調理担当者、看護師等との連携もあるので。 ・環境による保育をより大切に「計画的に環境を構成し、工夫して保育すること」を強調して欲しいと思う。また、英語教室、体育教室などの「〇〇教室」で組み立てられるような保育、それが”売り”となることのない配慮をお願いしたい。 <p>小学校の”ゆとりの時間”が学力低下につながっていると、良さが発揮されないままつぶれようとしているようである。環境による保育も保育者の力量が大いに関係してくる。指導型の保育に戻るることのない保育指針であって欲しいと願っている。</p>

資料3：質問紙調査集計結果

表1-1 居住地

	総数	北海道・東北	関東	東海・北信越	近畿	中国・四国	九州・沖縄	無回答
調査1	63	3	5	23	5	13	14	0
	100.0	4.8	7.9	36.5	7.9	20.6	22.2	0.0
調査2	453	73	109	100	35	55	74	7
	100.0	16.1	24.1	22.1	7.7	12.1	16.3	1.5

表1-2 回答者の職名

	総数	主任保育士	その他	無回答
調査2	453	407	35	11
	100.0	89.8	7.7	2.4

表1-3 保育所の設置運営主体

	総数	公設公営	公設民営	民設民営	その他	無回答
調査1	63	26	3	26	0	8
	100.0	41.3	4.8	41.3	0.0	12.7
調査2	453	206	36	186	1	24
	100.0	45.5	7.9	41.1	0.2	5.3

表1-4 回答者の保育経験

	総数	10年未満	10年以上	15年以上	20年以上	25年以上	30年以上	35年以上	無回答
調査1	63	0	7	4	15	18	13	1	5
	100.0	0.0	11.1	6.3	23.8	28.6	20.6	1.6	7.9
調査2	453	23	38	59	77	92	130	27	7
	100.0	5.1	8.4	13.0	17.0	20.3	28.7	6.0	1.5

表1-5 回答者の年齢

	総数	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	無回答
調査1	63	0	6	27	20	1	9
	100.0	0.0	9.5	42.9	31.7	1.6	14.3
調査2	453	11	51	142	215	7	27
	100.0	2.4	11.3	31.3	47.5	1.5	6.0

表1-6 勤務する保育所の児童の年齢

	総数	0～5歳	0～6歳	1～6歳	その他
調査1	63	5	46	7	4
	100.0	7.9	73.0	11.1	6.3

表2-1 6か月未満児の保育の内容

第3章 6か月未満児の保育の内容 3 ねらい		総数	とても必要である	やや必要である	ほとんど必要ない	無回答
(1)	保健的で安全な環境をつくり、常に体の状態を細かく観察し、疾病や異常は早く発見し、快適に生活できるようにする。	63	63	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
(2)	一人一人の子どもの生活のリズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。	63	63	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
(3)	一人一人の子どもの状態に応じて、スキンシップを十分にとりながら心身ともに快適な状態をつくり、情緒の安定を図る。	63	62	1	0	0
		100.0	98.4	1.6	0.0	0.0
(4)	個人差に応じて授乳を行い、離乳を進めて、健やかな発育・発達を促す。	63	58	4	0	1
		100.0	92.1	6.3	0.0	1.6
(5)	安全で活動しやすい環境の下で、寝返りや腹ばいなど運動的な活動を促す。	63	61	2	0	0
		100.0	96.8	3.2	0.0	0.0
(6)	笑ったり、泣いたりする子どもの状態にやさしく応え、発声にตอบสนองしながら喃語を育む。	63	62	1	0	0
		100.0	98.4	1.6	0.0	0.0
(7)	安心できる人的、物的環境のもとで、聞く、見る、触れるなど感覚の働きが豊かになるようにする。	63	61	2	0	0
		100.0	96.8	3.2	0.0	0.0

表2-2 6か月から1歳3か月未満児の保育の内容

第4章 6か月から1歳3か月未満児の保育の内容 3 ねらい		総数	とても必要である	やや必要である	ほとんど必要ない	無回答
(1)	保健的で安全な環境をつくり、体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め、快適に生活できるようにする。	63	62	1	0	0
		100.0	98.4	1.6	0.0	0.0
(2)	一人一人の子どもの生活のリズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。	63	63	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
(3)	一人一人の子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。	63	63	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
(4)	離乳を進め、様々な食品に慣れさせながら幼児食への移行を図る。	63	59	4	0	0
		100.0	93.7	6.3	0.0	0.0
(5)	姿勢を変えたり、移動したり様々な身体活動を十分に行えるように、安全で活動しやすい環境を整える。	63	59	3	0	1
		100.0	93.7	4.8	0.0	1.6
(6)	優しく語りかけたり、発声や喃語にตอบสนองしたりして、発語の意欲を育てる。	63	63	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
(7)	聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手や指の機能を働かそうとする。	63	62	1	0	0
		100.0	98.4	1.6	0.0	0.0
(8)	絵本や玩具、身近な生活用具が用意された中で、身の回りのものに対する興味や好奇心が芽生える。	63	59	4	0	0
		100.0	93.7	6.3	0.0	0.0

表2-3 1歳3か月から2歳未満児の保育の内容

第5章 1歳3か月から2歳未満児の保育の内容 3 ねらい		総数	とても必要である	やや必要である	ほとんど必要ない	無回答
(1)	保健的で安全な環境をつくり、体の状態を観察し、快適に生活できるようにする。	63	60	2	0	1
		100.0	95.2	3.2	0.0	1.6
(2)	一人一人の子どもの生理的欲求や甘えなどの依存欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。	63	61	1	0	1
		100.0	96.8	1.6	0.0	1.6
(3)	様々な食品や調理形態に慣れ、楽しい雰囲気のもとで食べることができるようにする。	63	58	4	0	1
		100.0	92.1	6.3	0.0	1.6
(4)	一人一人の子どもの状態に応じて、睡眠など適切な休息をとるようにし、快適に過ごせるようにする。	63	56	6	0	1
		100.0	88.9	9.5	0.0	1.6
(5)	安心できる保育士との関係の下で、食事、排泄などの活動を通して、自分でしようとする気持ちが芽生える。	63	60	2	0	1
		100.0	95.2	3.2	0.0	1.6
(6)	安全で活動しやすい環境の中で、自由に体を動かすことを楽しむ。	63	57	4	0	2
		100.0	90.5	6.3	0.0	3.2
(7)	安心できる保育士の見守りの中で、身の回りの大人や子どもに関心を持ち関わろうとする。	63	59	3	0	1
		100.0	93.7	4.8	0.0	1.6
(8)	身の回りの様々なものを自由にいじって遊び、外界に対する好奇心や関心を持つ。	63	53	6	1	3
		100.0	84.1	9.5	1.6	4.8
(9)	保育士の話しかけや、発語が促されたりすることにより、言葉を使うことを楽しむ。	63	60	1	0	2
		100.0	95.2	1.6	0.0	3.2
(10)	絵本、玩具などに興味を持って、それらを使った遊びを楽しむ。	63	59	2	0	2
		100.0	93.7	3.2	0.0	3.2
(11)	身近な音楽に親しみ、それに合わせた体の動きを楽しむ。	63	54	7	0	2
		100.0	85.7	11.1	0.0	3.2

表2-4 2歳児の保育の内容

第6章 2歳児の保育の内容 3 ねらい		総数	とても必要である	やや必要である	ほとんど必要ない	無回答
(1)	保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。	63	61	2	0	0
		100.0	96.8	3.2	0.0	0.0
(2)	一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。	63	61	2	0	0
		100.0	96.8	3.2	0.0	0.0
(3)	楽しんで食事、間食をとることができるようにする。	63	60	3	0	0
		100.0	95.2	4.8	0.0	0.0
(4)	午睡など適切に休息の機会をつくり、心身の疲れを癒して、集団生活による緊張を緩和する。	63	57	5	0	1
		100.0	90.5	7.9	0.0	1.6
(5)	安心できる保育士との関係の下で、食事、排泄などの簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。	63	61	2	0	0
		100.0	96.8	3.2	0.0	0.0
(6)	保育士と一緒に全身や手や指を使う遊びを楽しむ。	63	59	4	0	0
		100.0	93.7	6.3	0.0	0.0
(7)	身の回りに様々な人がいることを知り、徐々に友達と関わって遊ぶ楽しさを味わう。	63	60	3	0	0
		100.0	95.2	4.8	0.0	0.0
(8)	身の回りのものや親しみの持てる小動物や植物を見たり、触れたり、保育士から話を聞いたりして興味や関心を広げる。	63	57	6	0	0
		100.0	90.5	9.5	0.0	0.0
(9)	保育士を仲立ちとして、生活や遊びの中で言葉のやりとりを楽しむ。	63	62	1	0	0
		100.0	98.4	1.6	0.0	0.0
(10)	保育士と一緒に人や動物などの模倣をしたり、経験したことを思い浮かべたりして、ごっこ遊びを楽しむ。	63	56	7	0	0
		100.0	88.9	11.1	0.0	0.0
(11)	興味のあることや経験したことなどを生活や遊びの中で、保育士とともに好きなように表現する。	63	57	6	0	0
		100.0	90.5	9.5	0.0	0.0

表2-5 3歳児の保育の内容

第7章 3歳児の保育の内容 3 ねらい		総数	とても必要である	やや必要である	ほとんど必要ない	無回答
(1)	保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。	63	58	5	0	0
		100.0	92.1	7.9	0.0	0.0
(2)	一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。	63	57	6	0	0
		100.0	90.5	9.5	0.0	0.0
(3)	楽しんで食事や間食をとることができるようにする。	63	58	5	0	0
		100.0	92.1	7.9	0.0	0.0
(4)	午睡など適切な休息をとらせ、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する。	63	56	6	0	1
		100.0	88.9	9.5	0.0	1.6
(5)	食事、排泄、睡眠、衣服の着脱などの生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。	63	62	1	0	0
		100.0	98.4	1.6	0.0	0.0
(6)	外遊びを十分にするなど、遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。	63	63	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
(7)	身近な人と関わり、友達と遊ぶことを楽しむ。	63	61	2	0	0
		100.0	96.8	3.2	0.0	0.0
(8)	身近な動植物や自然事象に親しみ、自然に触れ十分に遊ぶことを楽しむ。	63	57	6	0	0
		100.0	90.5	9.5	0.0	0.0
(9)	身近な社会事象に親しみ、模倣したりして遊ぶことを楽しむ。	63	55	8	0	0
		100.0	87.3	12.7	0.0	0.0
(10)	身近な環境に興味を持ち、自分から関わり、生活を広げていく。	63	56	6	0	1
		100.0	88.9	9.5	0.0	1.6
(11)	生活に必要な言葉がある程度分かり、したいこと、して欲しいことを言葉で表す。	63	63	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
(12)	絵本、童話、視聴覚教材などを見たり聞いたりして、その内容や面白さを楽しむ。	63	60	3	0	0
		100.0	95.2	4.8	0.0	0.0
(13)	様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づく。	63	58	3	0	2
		100.0	92.1	4.8	0.0	3.2
(14)	感じたことや思ったことを描いたり、歌ったり、体を動かしたりして、自由に表現しようとする。	63	61	1	0	1
		100.0	96.8	1.6	0.0	1.6

表2-6 4歳児の保育の内容

第8章 4歳児の保育の内容 3 ねらい		総数	とても必要である	やや必要である	ほとんど必要ない	無回答
(1)	保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。	63	55	7	1	0
		100.0	87.3	11.1	1.6	0.0
(2)	一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。	63	57	6	0	0
		100.0	90.5	9.5	0.0	0.0
(3)	友達と一緒に食事をしたり、様々な食べ物を食べる楽しさを味わうようにする。	63	58	4	0	1
		100.0	92.1	6.3	0.0	1.6
(4)	午睡など適切な休息をとらせ、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する。	63	49	12	0	2
		100.0	77.8	19.0	0.0	3.2
(5)	自分でできることに喜びを持ちながら、健康、安全など生活に必要な基本的な習慣を次第に身につける。	63	59	3	0	1
		100.0	93.7	4.8	0.0	1.6
(6)	身近な遊具や用具を使い、十分に体を動かして遊ぶことを楽しむ。	63	60	2	0	1
		100.0	95.2	3.2	0.0	1.6
(7)	保育士や友達の言うことを理解しようとする。	63	59	2	1	1
		100.0	93.7	3.2	1.6	1.6
(8)	友達とのつながりを広げ、集団で活動することを楽しむ。	63	61	1	0	1
		100.0	96.8	1.6	0.0	1.6
(9)	異年齢の子どもに関心を持ち、関わりを広める。	63	57	5	0	1
		100.0	90.5	7.9	0.0	1.6
(10)	身近な動植物に親しみ、それらに関心や愛情を持つ。	63	56	6	0	1
		100.0	88.9	9.5	0.0	1.6
(11)	身の回りの人々の生活に親しみ、身近な社会の事象に関心を持つ。	63	56	4	0	3
		100.0	88.9	6.3	0.0	4.8
(12)	身近な環境に興味を持ち、自分から関わり、身の回りの事物や数、量、形などに関心を持つ。	63	56	6	0	1
		100.0	88.9	9.5	0.0	1.6
(13)	人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。	63	62	0	0	1
		100.0	98.4	0.0	0.0	1.6
(14)	絵本、童話、視聴覚教材などを見たり聞いたりして、イメージを広げ、言葉を豊かにする。	63	60	2	0	1
		100.0	95.2	3.2	0.0	1.6
(15)	身近な事物などに関心を持ち、それらの面白さ、不思議さ、美しさなどに気づく。	63	59	3	0	1
		100.0	93.7	4.8	0.0	1.6
(16)	感じたことや思ったこと、想像したことなどを様々な方法で自由に表現する。	63	60	2	0	1
		100.0	95.2	3.2	0.0	1.6

表2-7 5歳児の保育の内容

第9章 5歳児の保育の内容 3 ねらい		総数	とても必要である	やや必要である	ほとんど必要ない	無回答
(1)	保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。	63	53	8	1	1
		100.0	84.1	12.7	1.6	1.6
(2)	一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。	63	55	7	0	1
		100.0	87.3	11.1	0.0	1.6
(3)	食事をすることの意味が分かり、楽しんで食事や間食をとるようにする。	63	59	3	0	1
		100.0	93.7	4.8	0.0	1.6
(4)	午睡など適切な休息をさせ、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する。	63	44	17	0	2
		100.0	69.8	27.0	0.0	3.2
(5)	自分でできることの範囲を広げながら、健康、安全など生活に必要な基本的習慣や態度を身につける。	63	62	0	0	1
		100.0	98.4	0.0	0.0	1.6
(6)	安全や危険の意味やきまりが分かり、危険を避けて行動する。	63	57	5	0	1
		100.0	90.5	7.9	0.0	1.6
(7)	様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しむ。	63	59	3	0	1
		100.0	93.7	4.8	0.0	1.6
(8)	周りの人々に対する親しみを深め、集団の中で自己主張したり、また、人の立場を考えながら行動する。	63	58	4	0	1
		100.0	92.1	6.3	0.0	1.6
(9)	異年齢の子どもたちと遊ぶ楽しさを味わう。	63	60	2	0	1
		100.0	95.2	3.2	0.0	1.6
(10)	身近な社会や自然の環境と触れ合う中で、自分たちの生活との関係に気づき、それらを取り入れて遊ぶ。	63	58	4	0	1
		100.0	92.1	6.3	0.0	1.6
(11)	日常生活に必要な事物を見たり、扱ったりなどして、その性質や存在に興味を持ったり、数、量、形などへの関心を深める。	63	59	3	0	1
		100.0	93.7	4.8	0.0	1.6
(12)	様々な機会や場で活発に話したり、聞いたりして、生活の中で適切に言葉を使う。	63	58	4	0	1
		100.0	92.1	6.3	0.0	1.6
(13)	絵本、童話、視聴覚教材などを見たり聞いたりして、その内容や面白さを楽しみ、イメージを豊かに広げる。	63	61	1	0	1
		100.0	96.8	1.6	0.0	1.6
(14)	身近な社会や自然現象への関心が高まり、様々なものの面白さ、不思議さ、美しさなどに感動する。	63	62	0	0	1
		100.0	98.4	0.0	0.0	1.6
(15)	感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して、表現する。	63	61	1	0	1
		100.0	96.8	1.6	0.0	1.6

表2-8 6歳児の保育の内容

第10章 6歳児の保育の内容 3 ねらい		総数	とても必要である	やや必要である	ほとんど必要ない	無回答
(1)	保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。	63	53	8	1	1
		100.0	84.1	12.7	1.6	1.6
(2)	一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。	63	53	9	0	1
		100.0	84.1	14.3	0.0	1.6
(3)	できるだけ多くの種類の食べ物をとり、楽しんで食事や間食をとるようにする。	63	55	7	0	1
		100.0	87.3	11.1	0.0	1.6
(4)	午睡など適切な休息をとらせ、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する。	63	39	16	4	4
		100.0	61.9	25.4	6.3	6.3
(5)	体や病気について関心を持ち、健康な生活に必要な基本的な習慣や態度を身につける。	63	60	2	0	1
		100.0	95.2	3.2	0.0	1.6
(6)	安全に必要な基本的な習慣や態度を身につけ、そのわけを理解して行動する。	63	62	0	0	1
		100.0	98.4	0.0	0.0	1.6
(7)	様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団的な遊びを通して体を動かすことを楽しむ。	63	59	3	0	1
		100.0	93.7	4.8	0.0	1.6
(8)	進んで身近な人と関わり、信頼感や愛情を持って生活する。	63	60	2	0	1
		100.0	95.2	3.2	0.0	1.6
(9)	身近な人との関わりの中で、人の立場を理解して行動し、進んで集団での活動に参加する。	63	59	3	0	1
		100.0	93.7	4.8	0.0	1.6
(10)	進んで異年齢の子どもたちと関わり、生活や遊びなどで役割を分担する楽しさを味わう。	63	58	4	0	1
		100.0	92.1	6.3	0.0	1.6
(11)	身近な社会や自然の環境に自ら関わり、それらと自分たちの生活との関係に気づき、生活や遊びに取り入れる。	63	60	2	0	1
		100.0	95.2	3.2	0.0	1.6
(12)	身近な事物や事象に積極的に関わり、見たり扱ったりする中で、その性質や数、量、形への関心を深める。	63	59	3	0	1
		100.0	93.7	4.8	0.0	1.6
(13)	自分の経験したこと、考えたことなどを適切な言葉で表現し、相手と伝え合う楽しさを味わう。	63	60	1	0	2
		100.0	95.2	1.6	0.0	3.2
(14)	人と話し合うことや、身近な文字に関心を深め、読んだりすることの楽しさを味わう。	63	59	3	0	1
		100.0	93.7	4.8	0.0	1.6
(15)	絵本や童話、視聴覚教材などを見たり、聞いたりして様々なイメージを広げるとともに、想像することの楽しさを味わう。	63	61	1	0	1
		100.0	96.8	1.6	0.0	1.6
(16)	身近な社会や自然事象への関心を深め、美しさ、やさしさ、尊さなどに対する感覚を豊かにする。	63	60	2	0	1
		100.0	95.2	3.2	0.0	1.6
(17)	感じたことや思ったこと、想像したことなどを、様々な方法で工夫して自由に表現する。	63	59	3	0	1
		100.0	93.7	4.8	0.0	1.6

表3 第1章 総則

第1章 総則			総数	このまま でよい	一部変え るべき	変える べき	無回答
Q1	前文		453	396	40	1	16
			100.0	87.4	8.8	0.2	3.5
Q2	1. 保育の原理	(1) 保育の目標	453	423	23	0	7
			100.0	93.4	5.1	0.0	1.5
Q3		(2) 保育の方法	453	404	37	1	11
			100.0	89.2	8.2	0.2	2.4
Q4		(3) 保育の環境	453	410	29	2	12
			100.0	90.5	6.4	0.4	2.6
Q5	2. 保育の内容 構成の基本方針	(1) ねらい及び内容	453	401	39	2	11
			100.0	88.5	8.6	0.4	2.4
Q6		(2) 保育の計画	453	409	29	2	13
			100.0	90.3	6.4	0.4	2.9

表4 第2章 子どもの発達

第2章 子どもの発達			総数	このまま でよい	一部変え るべき	変える べき	無回答
Q1	1. 子どもと大人との関係		453	414	29	2	8
			100.0	91.4	6.4	0.4	1.8
Q2	2. 子ども自身の発達		453	419	23	1	10
			100.0	92.5	5.1	0.2	2.2
Q3	3. 子どもの生活と発達の援助		453	411	31	2	9
			100.0	90.7	6.8	0.4	2.0

表5 構成や内容について

			総数	このまま でよい	一部変え るべき	変える べき	無回答
Q1	第3章から第10章の発達過程区分について		453	350	80	12	11
			100.0	77.3	17.7	2.6	2.4
Q2	第3章から第10章の、「発達の主な特徴」、「保育士の姿勢とかかわりの視点」「ねらい」「内容」「配慮事項」の示し方		453	401	36	3	13
			100.0	88.5	7.9	0.7	2.9
Q3	「3歳児」～「6歳児」の「内容」は「基礎的事項」と「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域について		453	393	41	7	12
			100.0	86.8	9.1	1.5	2.6

表6 第11章 保育の計画作成上の留意事項

第11章 保育の計画作成上の留意事項		総数	このまま でよい	一部変え るべき	変える べき	無回答
Q1	1 保育計画と指導計画	453	425	15	2	11
		100.0	93.8	3.3	0.4	2.4
Q2	2 長期的指導計画と短期的指導計画 の作成	453	418	20	3	12
		100.0	92.3	4.4	0.7	2.6
Q3	3 3歳未満児の指導計画	453	419	16	5	13
		100.0	92.5	3.5	1.1	2.9
Q4	4 3歳以上児の指導計画	453	418	16	5	14
		100.0	92.3	3.5	1.1	3.1
Q5	5 異年齢の編成による保育	453	415	23	3	12
		100.0	91.6	5.1	0.7	2.6
Q6	6 職員の協力体制	453	406	30	5	12
		100.0	89.6	6.6	1.1	2.6
Q7	7 家庭や地域社会との連携	453	410	25	4	14
		100.0	90.5	5.5	0.9	3.1
Q8	8 小学校との関係	453	386	50	4	13
		100.0	85.2	11.0	0.9	2.9
Q9	9 障害のある子どもの保育	453	384	45	9	15
		100.0	84.8	9.9	2.0	3.3
Q10	10 長時間にわたる保育	453	395	31	10	17
		100.0	87.2	6.8	2.2	3.8
Q11	11 地域活動など特別事業	453	419	15	6	13
		100.0	92.5	3.3	1.3	2.9
Q12	12 指導計画の評価・改善	453	421	12	6	14
		100.0	92.9	2.6	1.3	3.1

表7 第12章 健康・安全に関する留意事項

第12章 健康・安全に関する留意事項		総数	このまま でよい	一部変え るべき	変える べき	無回答
Q1	1 日常の保育における保健活動	453	408	31	2	12
		100.0	90.1	6.8	0.4	2.6
Q2	2 健康診断	453	420	17	4	12
		100.0	92.7	3.8	0.9	2.6
Q3	3 予防接種	453	417	18	3	15
		100.0	92.1	4.0	0.7	3.3
Q4	4 疾病異常等に関する対応	453	389	47	4	13
		100.0	85.9	10.4	0.9	2.9
Q5	5 保育の環境保健	453	421	14	5	13
		100.0	92.9	3.1	1.1	2.9
Q6	6 事故防止・安全指導	453	391	47	4	11
		100.0	86.3	10.4	0.9	2.4
Q7	7 虐待などへの対応	453	396	30	11	16
		100.0	87.4	6.6	2.4	3.5
Q8	8 乳児保育についての配慮	453	415	19	4	15
		100.0	91.6	4.2	0.9	3.3
Q9	9 家庭、地域との連携	453	413	22	4	14
		100.0	91.2	4.9	0.9	3.1

表8 第13章 保育所における子育て支援及び職員の研修など

第13章 保育所における子育て支援及び職員の研修など			総数	このまま でよい	一部変え るべき	変える べき	無回答
Q1		(1) 障害のある子どもの保育	453	390	36	4	23
			100.0	86.1	7.9	0.9	5.1
Q2	1 入所児童の 多様な保育 ニーズへの対応	(2) 延長保育、夜間保育など	453	387	34	7	25
			100.0	85.4	7.5	1.5	5.5
Q3		(3) 特別な配慮を必要とする子どもと保護者への対応	453	396	22	8	27
			100.0	87.4	4.9	1.8	6.0
Q4		(1) 一時保育	453	399	19	9	26
			100.0	88.1	4.2	2.0	5.7
Q5	2 地域における 子育て支援	(2) 地域活動事業	453	400	16	7	30
			100.0	88.3	3.5	1.5	6.6
Q6		(3) 乳幼児の保育に関する相談・助言	453	397	22	6	28
			100.0	87.6	4.9	1.3	6.2
Q7	3. 職員の研修等		453	386	21	8	38
			100.0	85.2	4.6	1.8	8.4

表9-1 主任保育士の保育指針の活用状況

	総数	いつも活用 している	ときどき活 用している	あまり活用 していない	無回答
調査1	63	26	30	3	4
	100.0	41.3	47.6	4.8	6.3
調査2	453	62	320	61	10
	100.0	13.7	70.6	13.5	2.2

表9-2 保育士の保育指針の活用状況

	総数	いつも活用 している	ときどき活 用している	あまり活用 していない	無回答
調査1	63	15	37	10	1
	100.0	23.8	58.7	15.9	1.6
調査2	453	43	277	116	17
	100.0	9.5	61.1	25.6	3.8

表9-3 指導計画の参考としているもの(主任保育士)

	総数	保育専門の 雑誌	保育専門の 書籍	保育所の過 去の指導計 画	団体や地域 の統一計画	その他	無回答
調査1	63	54	17	32	15	3	2
	100.0	85.7	27.0	50.8	23.8	4.8	3.2
調査2	453	373	210	196	58	63	9
	100.0	82.3	46.4	43.3	12.8	13.9	2.0

表9-4 指導計画の参考としているもの(保育士)

	総数	保育専門の 雑誌	保育専門の 書籍	保育所の過 去の指導計 画	団体や地域 の統一計画	その他	無回答
調査1	63	53	11	33	10	0	4
	100.0	84.1	17.5	52.4	15.9	0.0	6.3
調査2	453	391	151	220	53	46	16
	100.0	86.3	33.3	48.6	11.7	10.2	3.5

表9-5 主任保育士から保育士への保育指針活用の指導

	総数	いつも指導 している	ときどき指 導している	あまり指導 していない	無回答
調査1	63	14	37	11	1
	100.0	22.2	58.7	17.5	1.6
調査2	453	43	228	172	10
	100.0	9.5	50.3	38.0	2.2

第4章 6か月から1歳3か月未満児の保育の内容 3 ねらい		とても必要である	やや必要である	ほとんど必要ない
(1)	保健的で安全な環境をつくり、体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め、快適に生活できるようにする。	1	2	3
(2)	一人一人の子どもの生活のリズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。	1	2	3
(3)	一人一人の子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。	1	2	3
(4)	離乳を進め、様々な食品に慣れさせながら幼児食への移行を図る。	1	2	3
(5)	姿勢を変えたり、移動したり様々な身体活動を十分に行えるように、安全で活動しやすい環境を整える。	1	2	3
(6)	優しく語りかけたり、発声や喃語に回答したりして、発語の意欲を育てる。	1	2	3
(7)	聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手や指の機能を働かそうとする。	1	2	3
(8)	絵本や玩具、身近な生活用具が用意された中で、身の回りのものに対する興味や好奇心が芽生える。	1	2	3
その他、必要と思われる事項				

第5章 1歳3か月から2歳未満児の保育の内容 3 ねらい		とても必要である	やや必要である	ほとんど必要ない
(1)	保健的で安全な環境をつくり、体の状態を観察し、快適に生活できるようにする。	1	2	3
(2)	一人一人の子どもの生理的欲求や甘えなどの依存欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。	1	2	3
(3)	様々な食品や調理形態に慣れ、楽しい雰囲気のもとで食べることができるようにする。	1	2	3
(4)	一人一人の子どもの状態に応じて、睡眠など適切な休息をとるようにし、快適に過ごせるようにする。	1	2	3
(5)	安心できる保育士との関係の中で、食事、排泄などの活動を通して、自分でしようとする気持ちが芽生える。	1	2	3
(6)	安全で活動しやすい環境の中で、自由に体を動かすことを楽しむ。	1	2	3
(7)	安心できる保育士の見守りの中で、身の回りの大人や子どもに関心を持ち関わろうとする。	1	2	3
(8)	身の回りの様々なものを自由にいじって遊び、外界に対する好奇心や関心を持つ。	1	2	3
(9)	保育士の話しかけや、発語が促されたりすることにより、言葉を使うことを楽しむ。	1	2	3
(10)	絵本、玩具などに興味を持って、それらを使った遊びを楽しむ。	1	2	3
(11)	身近な音楽に親しみ、それに合わせた体の動きを楽しむ。	1	2	3
その他、必要と思われる事項				

第6章 2歳児の保育の内容 3 ねらい		とても必要である	やや必要である	ほとんど必要ない
(1)	保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。	1	2	3
(2)	一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。	1	2	3
(3)	楽しんで食事、間食をとることができるようにする。	1	2	3
(4)	午睡など適切に休息の機会をつくり、心身の疲れを癒して、集団生活による緊張を緩和する。	1	2	3
(5)	安心できる保育士との関係の下で、食事、排泄などの簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。	1	2	3
(6)	保育士と一緒に全身や手や指を使う遊びを楽しむ。	1	2	3
(7)	身の回りに様々な人がいることを知り、徐々に友達と関わって遊ぶ楽しさを味わう。	1	2	3
(8)	身の回りのものや親しみの持てる小動物や植物を見たり、触れたり、保育士から話を聞いたりして興味や関心を広げる。	1	2	3
(9)	保育士を仲立ちとして、生活や遊びの中で言葉のやりとりを楽しむ。	1	2	3
(10)	保育士と一緒に人や動物などの模倣をしたり、経験したことを思い浮かべたりして、ごっこ遊びを楽しむ。	1	2	3
(11)	興味のあることや経験したことなどを生活や遊びの中で、保育士とともに好きなように表現する。	1	2	3
その他、必要と思われる事項				

第7章 3歳児の保育の内容 3 ねらい		とても必要である	やや必要である	ほとんど必要ない
(1)	保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。	1	2	3
(2)	一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。	1	2	3
(3)	楽しんで食事や間食をとることができるようにする。	1	2	3
(4)	午睡など適切な休息をとらせ、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する。	1	2	3
(5)	食事、排泄、睡眠、衣服の着脱などの生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。	1	2	3
(6)	外遊びを十分にするなど、遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。	1	2	3
(7)	身近な人と関わり、友達と遊ぶことを楽しむ。	1	2	3
(8)	身近な動植物や自然事象に親しみ、自然に触れ十分に遊ぶことを楽しむ。	1	2	3
(9)	身近な社会事象に親しみ、模倣したりして遊ぶことを楽しむ。	1	2	3
(10)	身近な環境に興味を持ち、自分から関わり、生活を広げていく。	1	2	3
(11)	生活に必要な言葉がある程度分かり、したいこと、して欲しいことを言葉で表す。	1	2	3
(12)	絵本、童話、視聴覚教材などを見たり聞いたりして、その内容や面白さを楽しむ。	1	2	3
(13)	様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づく。	1	2	3
(14)	感じたことや思ったことを描いたり、歌ったり、体を動かしたりして、自由に表現しようとする。	1	2	3
その他、必要と思われる事項				